

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 2 部門第 5 区分
 【発行日】平成 19 年 11 月 8 日 (2007.11.8)

【公開番号】特開 2006-103395 (P2006-103395A)
 【公開日】平成 18 年 4 月 20 日 (2006.4.20)
 【年通号数】公開・登録公報 2006-016
 【出願番号】特願 2004-289596 (P2004-289596)
 【国際特許分類】

B 6 2 D 5/04 (2006.01)
F 1 6 H 1/16 (2006.01)
F 1 6 H 55/08 (2006.01)
F 1 6 H 55/24 (2006.01)
F 1 6 H 57/02 (2006.01)
F 1 6 H 57/12 (2006.01)

【F I】

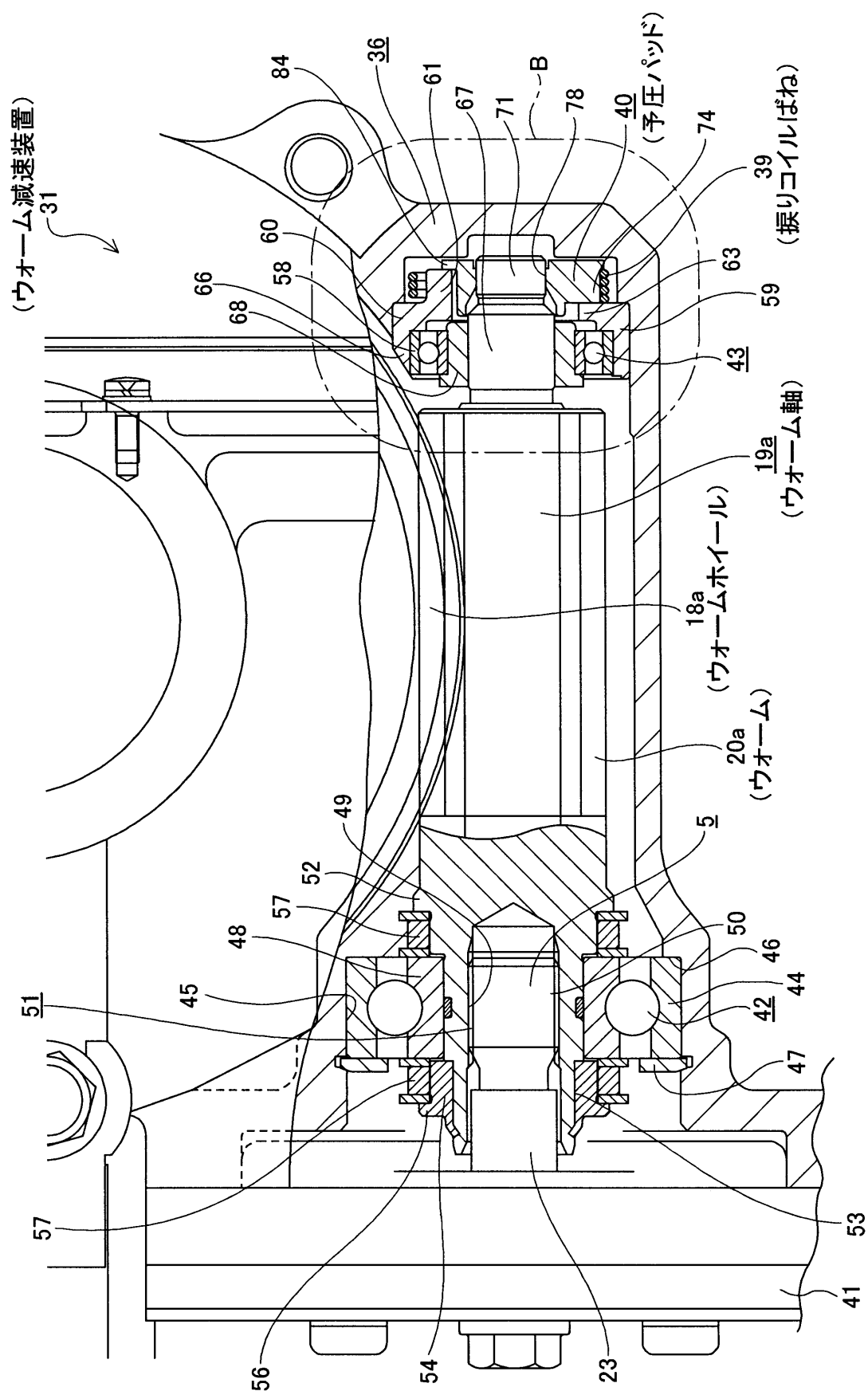
B 6 2 D 5/04
 F 1 6 H 1/16 Z
 F 1 6 H 55/08 Z
 F 1 6 H 55/24
 F 1 6 H 57/02 3 0 2 F
 F 1 6 H 57/12 Z

【手続補正書】
 【提出日】平成 19 年 9 月 21 日 (2007.9.21)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 1 7
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 1 7】

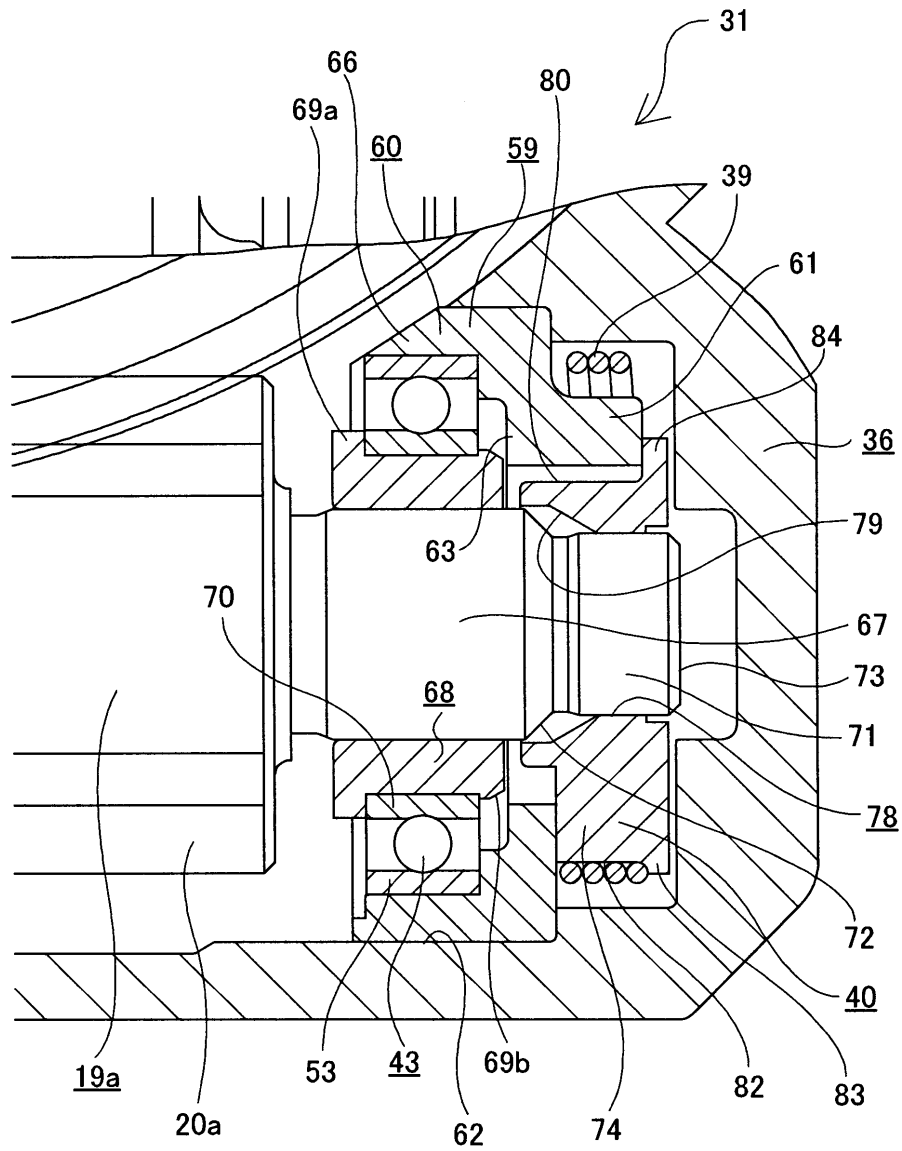
この様に、上記ウォーム軸 19 に上記噛合部で径方向に作用する実際の力 F_{r1} が大きくなる、上記ウォームホイール 18 が他方向に回転する場合（図 15 に示す場合）には、上記ウォーム軸 19 のウォームの歯面が上記ウォームホイール 18 の歯面から離隔し易くなる。一方、これら歯面同士が押し付け合う力を大きくすると、上記ウォームホイール 18 及びウォーム軸 19 の回転トルクが増大する。このような事情から、上記ウォームホイール 18 が他方向に回転する場合（図 15 に示す場合）に、上記歯面同士を離隔させない事と、これら各歯面同士が押し付け合う力を過大にしない事との両立を図る事を考慮して、上記ウォーム軸 19 に弾力付与手段により付与する弾力は、適切な所定値に設定する必要がある。但し、この様に上記弾力を設定した場合でも、上記ウォームホイール 18 が一方向に回転する場合（図 14 の場合）には、上記各歯面同士が押し付け合う力が過大になる事が避けられない。この為、自動車を旋回走行から直進走行に戻す際の、ステアリングホイールが中立状態に戻る、戻り性能が一方向で悪化したり、運転者がこのステアリングホイールを回転させるのに要する力が一方向で過大になり、これら戻り性能や力の、このステアリングホイールの両回転方向での差が大きくなると言った問題が生じる。

【手続補正 2】
 【補正対象書類名】図面
 【補正対象項目名】図 2
 【補正方法】変更
 【補正の内容】

【 手 続 補 正 3 】

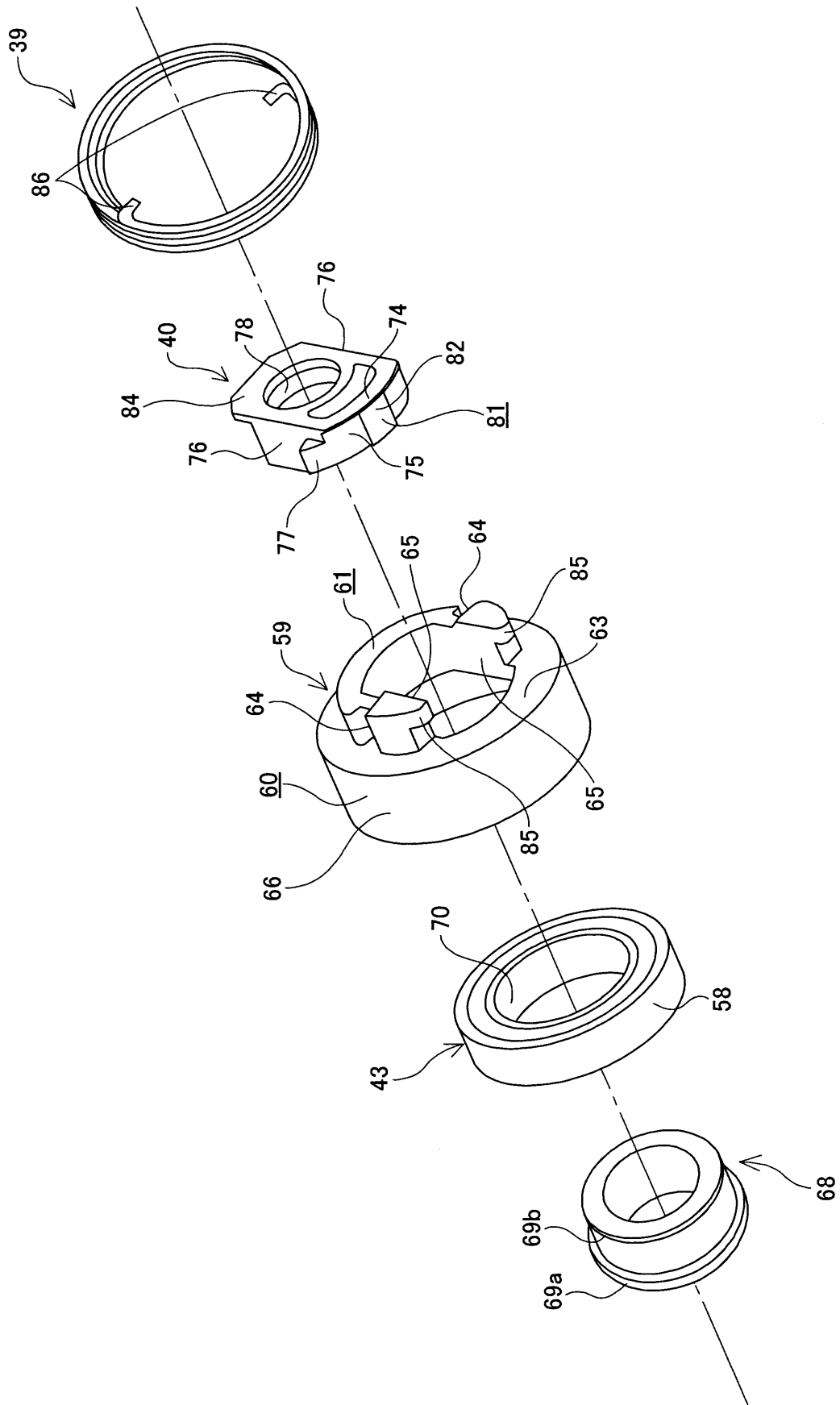


【補正対象書類名】図面
 【補正対象項目名】図3
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【図3】



【手続補正4】
 【補正対象書類名】図面
 【補正対象項目名】図4
 【補正方法】変更
 【補正の内容】

【 図 4 】



【補正対象書類名】図面
 【補正対象項目名】図 6
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【図 6】

